

**DATA : 外科**

- 日本外科学会専門医制度修練施設、日本消化器外科学会専門医修練施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本胆道学会認定指導医制度指導施設、腹部大動脈瘤ステントグラフト実施施設、日本乳癌学会認定施設、呼吸器外科専門医認定修練施設(関連)
- 主な対象疾患:【食道疾患】食道がん、食道アカラシアなど【胃疾患】胃がん、悪性リンパ腫など【大腸肛門疾患】大腸・直腸がん、大腸ポリープ、直腸脱など【肝・膵・胆道疾患】肝がん、膵がん、胆のう・胆管がん、胆石症、総胆管結石症など

## 多彩・多才な専門医を要する外科

私たち外科は、食道、胃、大腸、肝臓、膵胆道などを主な治療対象とした消化器外科を中心に、血管病変を扱う血管外科、乳がんを診療する乳腺外科、肺の悪性腫瘍などを対象とする呼吸器外科といった幅広い領域の専門医を擁し、高度な技術とチームワークで治療にあたっています。

そこに今春、大腸がんに対する腹腔鏡手術を得意とする長谷川博俊医師を迎え、今まで以上に大腸がん治療への取り組みを強化いたしました。

## 大腸がん×腹腔鏡手術

大腸がんは、がんの部位別死亡原因において女性の第1位、男性の第3位と、非常に多くみられる疾患ですが、早期の粘膜内に留まっているがんであれば内視鏡治療で根治することが可能です。この内視鏡治療は当院の消化器内科が主に行っており、良好な成績を上げています。

一方、粘膜下層より下に浸潤した進行がんの場合は、腸管や周囲のリンパ節の切除が必要となります。したがってがんの深達度の確認が重要になってきます。大腸がんでは内視鏡を用いて腺口形態を観察することで、深達度を高い精度で診断することが可能です。当科では、約100倍の拡大画像を得られる拡大内視鏡や色素を散布してより腺口形態を明確にする色素内視鏡などを用いて的確な診断を行っています。

そして、切除にあたっては、腹腔鏡を用いた手術を積極的に行っています。その割合は大腸がん手術全体で57%、とくに直腸がん手術では86%(昨年度実績)でした。

日本における大腸がんに対する腹腔鏡手術は1992年に慶應義塾大学外科によって始められまし

# 外科はパワーアップして大腸がんに挑みます

たが、この最初の腹腔鏡手術にかかわった長谷川医師が当科に加わったことでさらに腹腔鏡手術に強い体制が整いました。



## 3D血管造影でより安全に

腹腔鏡手術は、視野が限られ、狭い腹腔内で操作を行わなければならないなど、開腹手術に比べ難易度が高く、高度な技術が求められます。この難易度を少しでも軽減し、より安全で精緻な手術を目指すべく、3D画像技術を積極的にとりいれています。術前の診断・手術計画においては3D血管造影を用いています。この画像によって、がん周囲にある血管の走行を3次元的に確認することができ、術前に綿密なシミュレーションを行うことが可能になります。

そして、実際の手術においても最新の3D内視鏡を使用しています。これにより臓器を立体的に見ることができ、より精緻な手術が可能になります。こうした3D画像技術の導入により手術の安全性と根治性は確実に高まります。

# 最先端の画像と手術法を駆使し、多様な治療を実現する

外科

## 下部進行直腸がんに光を

こうした診断技術の向上は、より高度な手術を可能にします。かつては下部直腸がんの外科的対応では人工肛門の適応となっていました。当科では、腹腔内と肛門の両方から同時に施術を行う最新の手術手技「transanal-TME」にも取り組んでいます。この手技により、より低位の直腸がんに対しても、肛門を残すことが可能となりました。これらの様々な技術を背景に、患者様の術後QOLの向上に努めています。

## 連携による多様な治療を

大腸がんの症状は様々で、それぞれに適した治療法を選択する必要があります。私たち外科では、手術にこだわ

ることなく、消化器内科、放射線科とも連携して最善・最適な治療法を提案しています。とくに下部進行直腸がんにおいては術前の化学放射線療法によってがんの縮小を図ったのち手術を行う方法もあります。こうした症例のなかには、化学放射線療法だけでがんが消失する例もみられました。

以上のように当科は大腸がんの治療においてさらにパワーアップした集学的治療を提供しています。加えて大腸がんに限らず潰瘍性大腸炎やクローン病といった炎症性腸疾患、直腸脱といった様々な大腸・肛門疾患の治療にも習熟しています。先生方の日々の診療のなかで、大腸・肛門に関する気になる症状を発見されたら、お気軽にご相談・ご紹介いただければと思います。多くの先生方と情報を共有し合い、地域医療の発展に貢献してまいります。

**Dr's profile**



**Hirotohi Hasegawa**  
**長谷川博俊** 医師



**出身地**  
東京都世田谷区出身  
(生まれは大阪市)

**趣味**  
旅行、語学  
(英語、ドイツ語など)

**スポーツ歴**  
野球(中学)  
アメリカンフットボール(大学)

**医師になったきっかけ**  
幼い頃から憧れて

**座右の銘**  
鬼手仏心

**Dr's profile**



**Junichi Matsui**  
**松井淳一** 医師



**出身地**  
岐阜県吉城郡古川町  
(現在の飛騨市)

**趣味**  
歩くこと(山、街、旅...)  
音楽鑑賞(ロック、ジャズ)

**スポーツ歴**  
野球

**どんな医師を目指していますか**  
患者さんに共感、共鳴できる  
医師になりたい

**座右の銘**  
地道一番  
彼も人なり我も人なり

医療機関の先生方へ

市川総合病院 診療情報提供書

検索

当院と地域の病院・診療所の先生方との間で、患者様のご紹介などを円滑に行えるように、「地域医療連携室」を設置しています。ご不明な点がございましたら、下記へお尋ねください。

**患者支援センター地域医療連携室 TEL 047-322-0151(内線2214) FAX 047-324-8539(直通)**

開室時間 月曜日～金曜日:午前9時～午後5時 土曜日:午前9時～午後1時(第2土曜日は休診日)